

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	511 し尿収集経費	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	02	清掃費
基本 施策	22 全市的に生活排水処理施設を整備する	目	03	し尿処理費
		細目	269	し尿収集経費
		細々目	01	し尿収集経費
行革大綱の重点事項番号		2		
担当部課	コード 名称	100600 浄化センター	担当者 氏名	森永 典生
			連絡先	23 - 1179 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	旧上野市街地におけるし尿の収集を希望する世帯 ※対象件数
成果(どうする)	行き届いたサービスで満足の中市民サービスを受ける事ができる。
根拠法令・要綱等	伊賀市廃棄物の処理及び清掃に関する条例(平成16年11月1日条例第152号)
開始年度	平成 不明 年度
終了年度	平成 未定 年度
関連事業	特になし
H22 事業 内容	し尿収集カレンダーによる各自治会単位の収集と、緊急を要する臨時収集を実施する。また収集地域の縮小についても引き続き検討する。
社会情勢 の変化等	収集地域の縮小(民間へ移管)について検討している。

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
し尿収集件数		件	目標 18,500	目標 18,000	17,500	17,000
			実績 19,261	実績 18,336		
し尿収集量		ℓ	目標 3,700,000	目標 3,900,000	3,700,000	3,600,000
			実績 4,162,850	実績 3,894,510		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
し尿収集件数		旧上野市街地のニーズを示すもので本事業の指標とした。	件	目標 18500	目標 18000	17500	17000
				実績 19261	実績 18336		
し尿収集量			ℓ	目標 3700000	目標 3900000	3700000	3600000
				実績 4162850	実績 3894510		

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
A の 財 源 内 訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	36,379	32,548	20,736	25,723
事業投入人件費(B)		7.0 人	50,400	7.0 人	50,400
フルコスト(A)+(B)		86,779	82,948	99,936	104,923

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	直営し尿収集地域の縮小について、23年度に庁内関係各課と調整し、24年度に収集業者及びし尿尿取券取扱店と協議する。
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	改善策	24年度を目途に直営し尿収集地域を縮小するよう検討する。
昨年度の取組状況	【状況】	計画のとおり進んでいない
	【詳細】	伊賀市直営し尿収集・処理事業等検討委員会で、処理施設の民間委託の検討はできたが、直営の収集範囲縮小の検討はできなかった。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西 實
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 経費の削減のため、直営し尿収集地域を縮小する。
現時点における課題、その他	直営し尿収集地域を縮小することにより、収集業者の採算及びし尿尿取券取扱店の廃止を協議する必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成23年度に伊賀市直営し尿収集・処理事業等検討委員会で、直営し尿収集地域の縮小地域を決定し、平成24年度に収集業者及びし尿尿取券取扱店と協議し、平成25年度から直営し尿収集地域を縮小して収集する。